

学校規模ごとのメリット・デメリットについて

(記述分類)

- → 文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」引用
- → 館山市学校再編調査検討委員会での意見(元教員) ※ 文部科学省資料に記述以外の補足事項含む

I 小規模校(単一学級かつ15人以下)のメリット・デメリット ※ 基本指針P7～8記載事項を含む

| | メリット | デメリット |
|-------|--|---|
| 学習面 | <ul style="list-style-type: none"> ○● 一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい ○ 意見や感想を発表できる機会が多くなる ○ 教材・教具などを一人ひとりに行き渡せやすい | <ul style="list-style-type: none"> ○ クラス替えのメリットを享受できない(※注①参照) ○ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏など集団学習の実施に制約が生じる ● 集団学習(体育・音楽)の醍醐味を経験しづらい ○ 班活動やグループ分けに制約が生じる ○ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる ○ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる ○● 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる ● 少人数で子供達が互いの能力を理解しているため、授業は進むが思考の深まりや発見、考え方の広がり期待しにくい |
| 生活面 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる ○ 家庭状況が把握しやすいため保護者と連携した効果的な指導ができる ● 子供同士、教職員と子供が家庭的な雰囲気です日常生活を送っている ● 特別な支援を必要とする児童への支援がしやすい | <ul style="list-style-type: none"> ○ クラス替えのメリットを享受できない(※注①参照) ○ 男女比の偏りが生じやすい ● 卒業までの同じメンバーによる人間関係の固定化 ○ 学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる ○ 指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける ○ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる ○ 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる |
| 学校運営面 | <ul style="list-style-type: none"> ○● 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える ○● 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行える ○ 地域での協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい ● 保護者地域住民が学校行事に積極的に参加してくれる ● 教職員相互の連絡調整や連携が取りやすい | <ul style="list-style-type: none"> ○ クラス替えのメリットを享受できない(※注①参照) ○ クラブ活動や部活動の種類が限定される ○ 運動会・文化祭・遠足等の集団活動・行事の教育効果が下がる ○ 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になる可能性がある ○● 教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない ○● 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる ○● 教員同士が切磋琢磨する環境を作りやすく、指導技術の相互伝達がなされにくい(学年会や教科会等が成立しない) ○● 学校が直面する様々な課題に、組織的に対応することが困難な場合がある ○ 免許外指導の教科が生まれる可能性がある(中学校) ○ クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる ○ 経験年数・専門性・男女比等バランスの取れた教員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる |

※ 注① クラス替え（標準規模校）のメリット・デメリット

| | メリット | デメリット |
|-------|--|--|
| 学習面 | <ul style="list-style-type: none"> ○● 児童生徒を多様な意見に触れさせることができる ○● ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが可能となる ○● 学年内での教員の役割分担による専科指導（教科担任制）が可能となる ● クラスを交換して指導を行うことで児童生徒のつまづきを知り、互いに指導の手立てを考えることができる | <ul style="list-style-type: none"> ● 教員による各児童生徒一人ひとりの把握が難しく、個別指導の時間が不足することが多い |
| 生活面 | <ul style="list-style-type: none"> ○● 新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができる ● 豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすく、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい ○ クラス替えを契機として、児童生徒が意欲を新たにすることができる ○ 指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細やかな指導が可能となる | <ul style="list-style-type: none"> ● 教員による各児童生徒一人ひとりの把握が難しく、生徒指導上の問題が生じた場合、発見が遅れる可能性がある |
| 学校運営面 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒同士の間関係や児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる ○ クラス同士が切磋琢磨する環境を作ることができる ● 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい ● 教職員同士で学習指導や生徒指導等について相談・研究・協力して取り組み、教職員間で切磋琢磨する機会ができる ● 校務分掌（分担）を組織的に行いやすく、出張・研修等へ参加しやすい | <ul style="list-style-type: none"> ● 特別教室や体育館等の施設設備の利用面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある |

2 過小規模校（複式学級）のメリット・デメリット ※ 基本指針 P9 記載事項を含む

| | メリット | デメリット |
|-------|--|--|
| 学習面 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模校のメリット（上記1）をより享受できる ○ 教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実することができる ● 個別指導が中心となり個に応じた指導がほとんどとなる ● 教材や実験器具などを一人ひとりが使用できるため、傍観者にならずに学習ができる ● 水泳授業など全校で実施することで、目標が上級生の様子で分かるため水を怖がる（水泳授業を嫌いになる）子が出にくい | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員に特別な指導技術が求められる ● 異なる学年での合同授業となるため、系統的な指導計画を組むことが難しい ● わたりによる授業を行うと教師による直接指導が、通常の半分の指導時間数で年間課程を修了する ● 子供同士で考えさせることが出来ないため（同級生が少ない・時間数の制限がある）、授業は先に進めやすいが学習が深まらない ● 話し合いでの学習が成り立ちにくい ○ 実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる ● 実験・観察・見学などが多い理科社会の授業においても、半分の時間（20分）で知識を中心に伝達することとなり好ましくない ○ 単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある ● 競争意識が生まれずに現状に満足してしまう |
| 生活面 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模校のメリット（上記1）をより享受できる ● 日常的に上級生が下級生の指導を行うことで、集団としての一体感が育つ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生ずる可能性がある ● 子供同士の人間関係のトラブルが発生すると、逃げ場が無くなる |
| 学校運営面 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模校のメリット（上記1）をより享受できる ● 教員が成績処理に費やす時間が少ない分、児童との関係が密接になることもある | <ul style="list-style-type: none"> ○ 複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい ● 校務分掌は同じであり教員一人ひとりの負担が大きい ● 教員が休暇を取得すると学校全体の教育活動に影響が出るため、病気でも休みにくい |

3 学校規模の小規模化による課題点が、児童生徒に与える影響について（文部科学省手引きより）

| | |
|-----|---|
| 学習面 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 協働的な学びの実現が困難となる ○ 教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある |
| 生活面 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい ○ 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい ○ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい ○ 教員への依存心が強まる可能性がある ○ 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある ○ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい ○ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい |

※ 学級数が少ないことによる学校運営上の課題は、いずれも一般的に想定されるものであり、実際に個別の課題が生じるかどうかは、地域や児童生徒の実態、教育課程や指導方法の工夫の状況、教育委員会や地域・保護者からの支援体制など、学校が置かれた諸条件により大きく異なります。

